

# 食と農への関心・関わり度についてのアンケート結果

滋賀県農政水産部では、本県農業・水産業の基本的な施策の展開方向を示す「滋賀県農業・水産業基本計画」の次期計画(計画期間:令和3年度～令和7年度)の策定を進めています。

次期計画の策定に当たっては、「農業・水産業に関心・関わりを持つ人を増やす」ことを柱に検討を進めているところです。

そこで、県民の皆様の「食と農への関心・関わり度」を把握し、次期計画の策定に役立てることを目的としてアンケートを実施しました。

<参考 URL>

・滋賀県農業・水産業基本計画審議会

<http://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/shingikai/300406.html>

・滋賀県農業・水産業基本計画（平成 28 年 3 月策定）について

<http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/seisangizyutsu/18507.html>

★調査時期:令和2年5月

★対象者:県政モニター399人

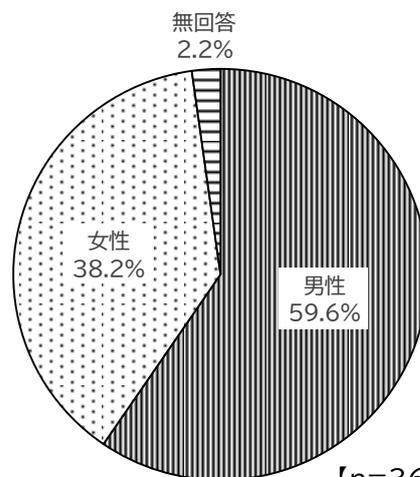
★回答数:361人（回収率 90.5%）

★担当課:農政水産部 農政課

## 【属性】

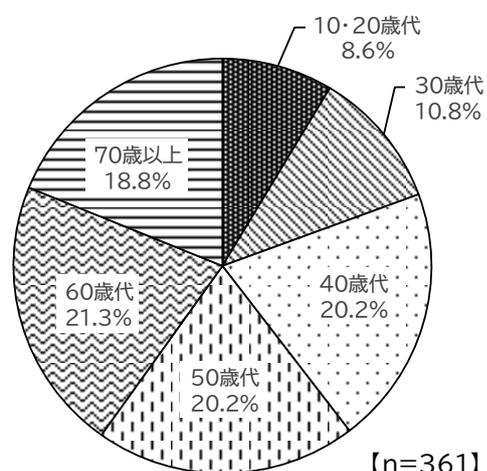
### ◆性別

| 項目  | 人数(人) | 割合    |
|-----|-------|-------|
| 男性  | 215   | 59.6% |
| 女性  | 138   | 38.2% |
| 無回答 | 8     | 2.2%  |
| 合計  | 361   | 100%  |



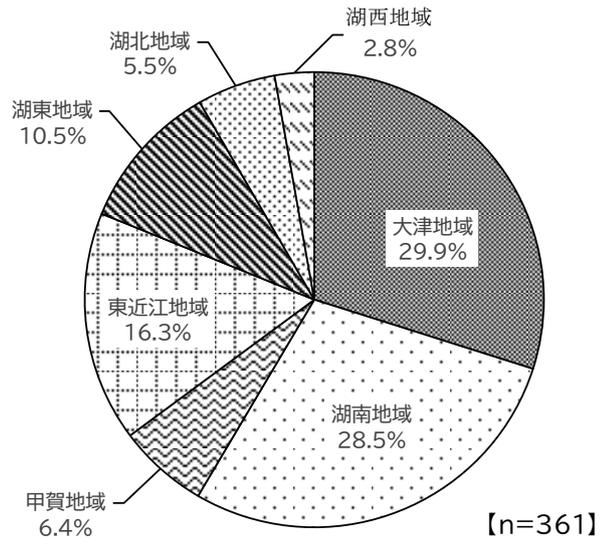
### ◆年代

| 項目      | 人数(人) | 割合    |
|---------|-------|-------|
| 10・20歳代 | 31    | 8.6%  |
| 30歳代    | 39    | 10.8% |
| 40歳代    | 73    | 20.2% |
| 50歳代    | 73    | 20.2% |
| 60歳代    | 77    | 21.3% |
| 70歳以上   | 68    | 18.8% |
| 計       | 361   | 100%  |



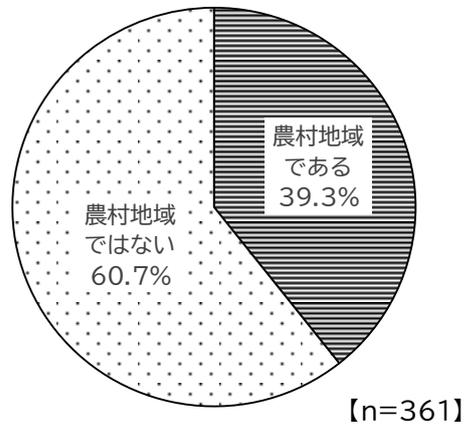
◆地域

| 項目    | 人数(人) | 割合    |
|-------|-------|-------|
| 大津地域  | 108   | 29.9% |
| 湖南地域  | 103   | 28.5% |
| 甲賀地域  | 23    | 6.4%  |
| 東近江地域 | 59    | 16.3% |
| 湖東地域  | 38    | 10.5% |
| 湖北地域  | 20    | 5.5%  |
| 湖西地域  | 10    | 2.8%  |
| 計     | 361   | 100%  |



【問1】 お住まいは主観的に見て、農村地域ですか。(回答チェックは1つだけ)

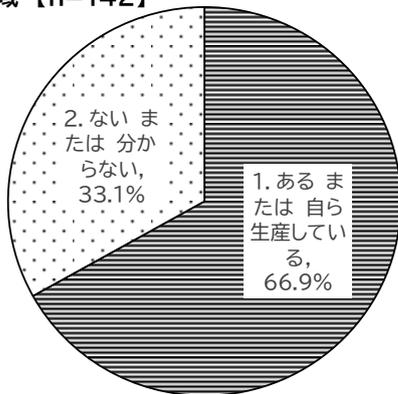
| 項目       | 人数(人) | 割合    |
|----------|-------|-------|
| 農村地域である  | 142   | 39.3% |
| 農村地域ではない | 219   | 60.7% |
| 合計       | 361   | 100%  |



【問2】 ここ数日の食事の中で、誰がどのようにして生産したか分かる食材はありますか。

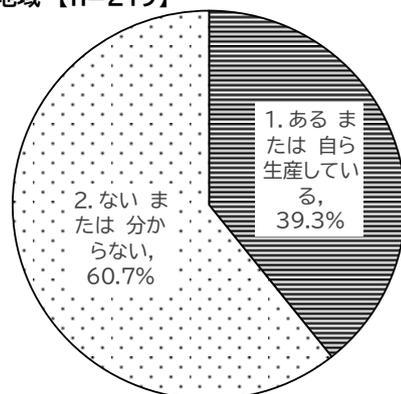
(回答チェックは1つだけ)

農村地域【n=142】



| 項目                 | 人数(人) | 割合    |
|--------------------|-------|-------|
| 1. ある または 自ら生産している | 95    | 66.9% |
| 2. ない または 分からない    | 47    | 33.1% |
| 合計                 | 142   | 100%  |

非農村地域【n=219】

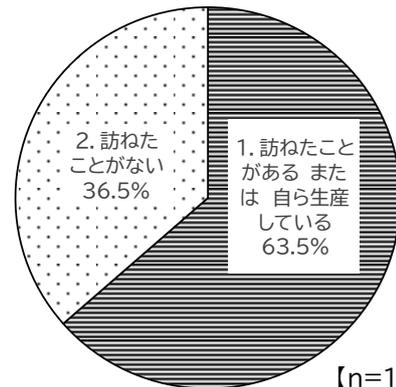


| 項目                 | 人数(人) | 割合    |
|--------------------|-------|-------|
| 1. ある または 自ら生産している | 86    | 39.3% |
| 2. ない または 分からない    | 133   | 60.7% |
| 合計                 | 219   | 100%  |

【問3】 ※問2で「1. ある または 自ら生産している」と回答された方にお尋ねします。

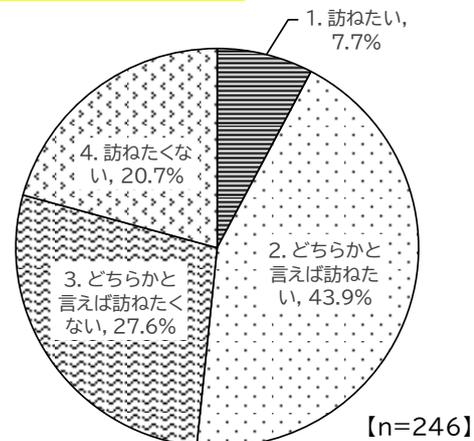
その食材を生産した農家・農場を訪ねたことがありますか。(回答チェックは1つだけ)

| 項目                       | 人数(人) | 割合    |
|--------------------------|-------|-------|
| 1. 訪ねたことがある または 自ら生産している | 115   | 63.5% |
| 2. 訪ねたことがない              | 66    | 36.5% |
| 合計                       | 181   | 100%  |



【問4】 ※問2で「2. ない または 分からない」と回答された方、または問3で「2. 訪ねたことがない」と回答された方にお尋ねします。普段の食事の食材を生産した農家・農場を訪ねたいですか。(回答チェックは1つだけ)

| 項目                | 人数(人) | 割合    |
|-------------------|-------|-------|
| 1. 訪ねたい           | 19    | 7.7%  |
| 2. どちらかと言えば訪ねたい   | 108   | 43.9% |
| 3. どちらかと言えば訪ねたくない | 68    | 27.6% |
| 4. 訪ねたくない         | 51    | 20.7% |
| 計                 | 246   | 100%  |

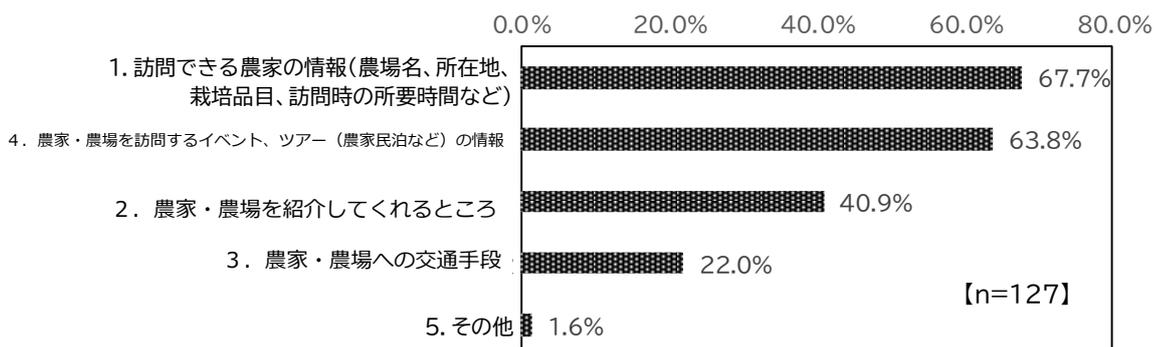


【問5】 ※問4で「1. 訪ねたい」または「2. どちらかと言えば訪ねたい」と回答された方にお尋ねします。

今後、あなたが「農家・農場を訪ねたい」を実現するためにはどのようなことが必要ですか。

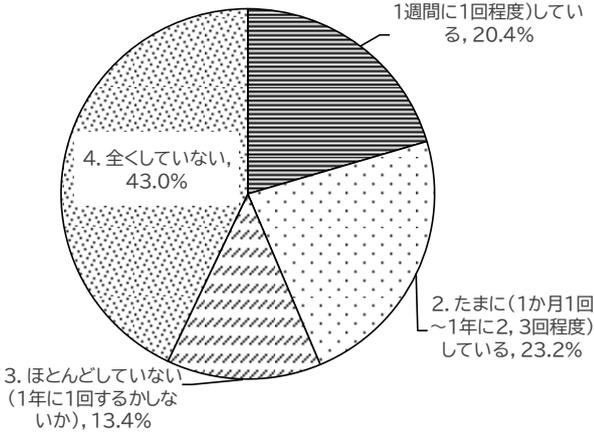
(回答チェックはいくつでも)

| 項目   | 人数(人) | 割合    |
|--|-------|-------|
| 1. 訪問できる農家の情報<br>(農場名、所在地、栽培品目、訪問時の所要時間など) | 86    | 67.7% |
| 4. 農家・農場を訪問するイベント、ツアー (農家民泊など) の情報         | 81    | 63.8% |
| 2. 農家・農場を紹介してくれるところ                        | 52    | 40.9% |
| 3. 農家・農場への交通手段                             | 28    | 22.0% |
| 5. その他                                     | 2     | 1.6%  |

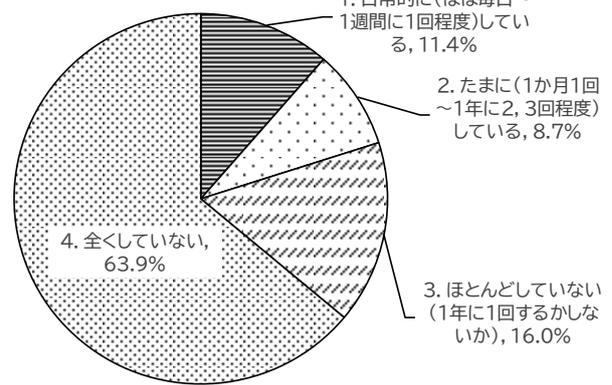


**【問6】 あなたは農作業をしていますか。**(回答チェックは1つだけ)

農村地域【n=142】



非農村地域【n=219】



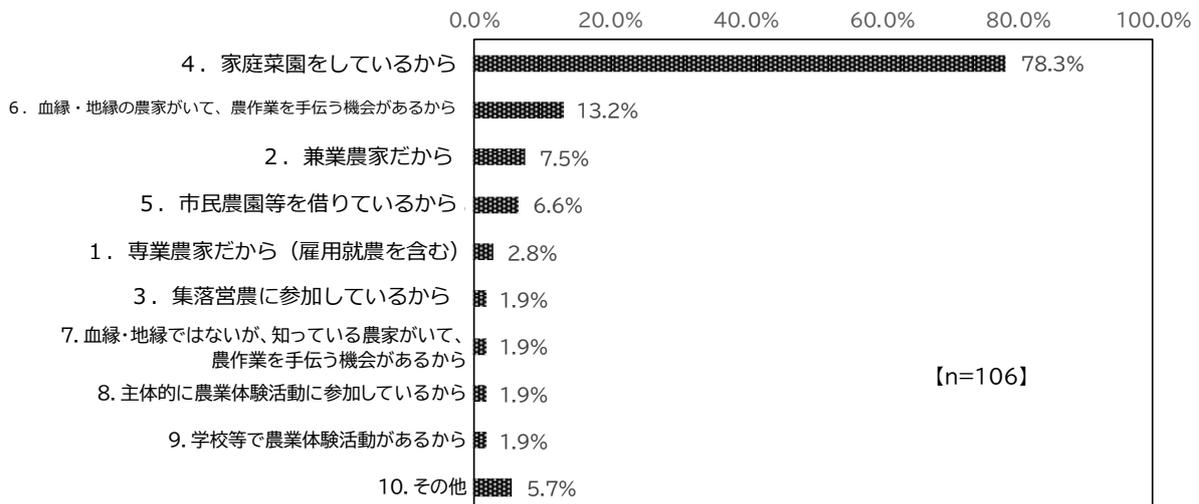
| 項目                          | 人数(人) | 割合    |
|-----------------------------|-------|-------|
| 1. 日常的に(ほぼ毎日～1週間に1回程度)している  | 29    | 20.4% |
| 2. たまに(1か月1回～1年に2,3回程度)している | 33    | 23.2% |
| 3. ほとんどしていない(1年に1回するかしないか)  | 19    | 13.4% |
| 4. 全くしていない                  | 61    | 43.0% |
| 合計                          | 142   | 100%  |

| 項目                          | 人数(人) | 割合    |
|-----------------------------|-------|-------|
| 1. 日常的に(ほぼ毎日～1週間に1回程度)している  | 25    | 11.4% |
| 2. たまに(1か月1回～1年に2,3回程度)している | 19    | 8.7%  |
| 3. ほとんどしていない(1年に1回するかしないか)  | 35    | 16.0% |
| 4. 全くしていない                  | 140   | 63.9% |
| 合計                          | 219   | 100%  |

**【問7】** ※問6で「1. 日常的にしている」または「2. たまにしている」と回答された方にお尋ねします。

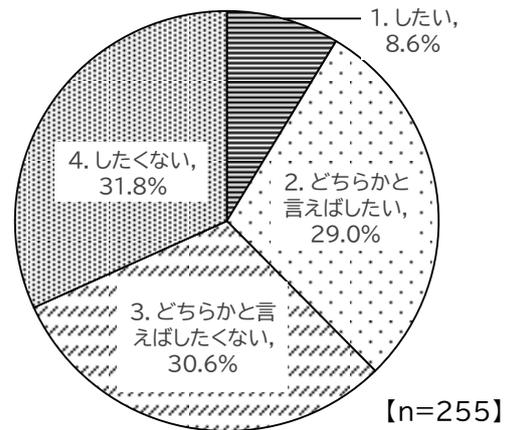
**農作業をする理由は何ですか。**(回答チェックはいくつでも)

| 項目                                      | 人数(人) | 割合    |
|---|-------|-------|
| 4. 家庭菜園をしているから                          | 83    | 78.3% |
| 6. 血縁・地縁の農家がいる、農作業を手伝う機会があるから           | 14    | 13.2% |
| 2. 兼業農家だから                              | 8     | 7.5%  |
| 5. 市民農園等を借りているから                        | 7     | 6.6%  |
| 1. 専業農家だから(雇用就農を含む)                     | 3     | 2.8%  |
| 3. 集落営農に参加しているから                        | 2     | 1.9%  |
| 7. 血縁・地縁ではないが、知っている農家がいる、農作業を手伝う機会があるから | 2     | 1.9%  |
| 8. 主体的に農業体験活動に参加しているから                  | 2     | 1.9%  |
| 9. 学校等で農業体験活動があるから                      | 2     | 1.9%  |
| 10. その他                                 | 6     | 5.7%  |



**【問8】** ※問6で「3. ほとんどしていない」または「4. 全くしていない」と回答された方にお尋ねします。  
**今後、農作業をしたいですか。**(回答チェックは1つだけ)

| 項目               | 人数(人) | 割合    |
|------------------|-------|-------|
| 1. したい           | 22    | 8.6%  |
| 2. どちらかと言えばしたい   | 74    | 29.0% |
| 3. どちらかと言えばしたくない | 78    | 30.6% |
| 4. したくない         | 81    | 31.8% |
| 合計               | 255   | 100%  |

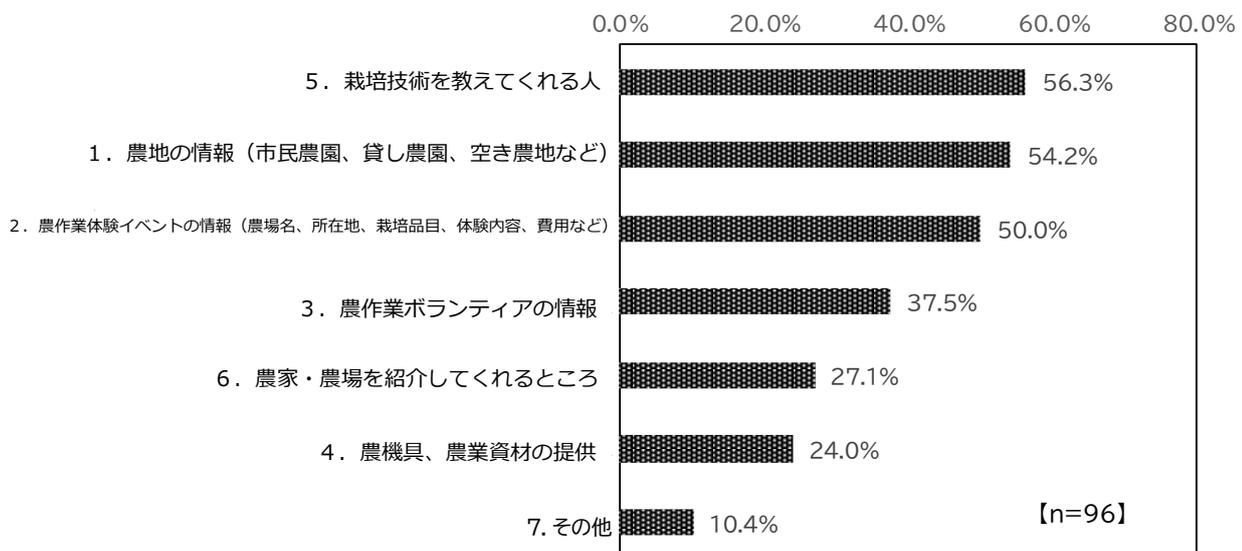


**【問9】** ※問8で「1. したい」または「2. どちらかと言えばしたい」と回答された方にお尋ねします。

**今後、あなたが「農作業をしたい」を実現するためにはどのようなことが必要ですか。**

(回答チェックはいくつでも)

| 項目                                       | 人数(人) | 割合    |
|--|-------|-------|
| 5. 栽培技術を教えてくれる人                          | 54    | 56.3% |
| 1. 農地の情報 (市民農園、貸し農園、空き農地など)              | 52    | 54.2% |
| 2. 農作業体験イベントの情報 (農場名、所在地、栽培品目、体験内容、費用など) | 48    | 50.0% |
| 3. 農作業ボランティアの情報                          | 36    | 37.5% |
| 6. 農家・農場を紹介してくれるところ                      | 26    | 27.1% |
| 4. 農機具、農業資材の提供                           | 23    | 24.0% |
| 7. その他                                   | 10    | 10.4% |



**【問10】 その他、あなたの暮らしの中の「食と農」についてご意見がありましたらお聞かせください。**

**【地産地消について】**

- 地産地消や有機栽培など、食にこだわるとそれだけ生ごみの量も増えるのが悩みです。そのため現在は生ごみコンポストを設置利用するために地域の家庭菜園を借り削減に取り組んでいます。  
消費者として積極的に地産地消するためには、その廃棄物をどのように処理していくのか、という食の出口の問題も大きく議論されるべきだと思っています。
- 地産地消をうまく回していくポイントは、消費者と農家の距離感にあるように思っています。私は草津のあおばな館で、農家さんの個人名が記入された野菜を毎週購入しているので、草津の農家さんに対しては、親近感を感じています。このような気持ちは、以前住んでいた京都市では感じられない、滋賀県ならではの体験とうれしく思っています。  
同じ滋賀県でも県北の農家さんに対しては、時々高島の直売所など伺ったときは、珍しい山菜など見つけ喜んで買ったりすることはあるものの、そのような機会は年数回あればという程度なので、結果、まだまだ距離感を感じる。いつか県全体の農家さんとの距離感がもっと近くなるようになればと思います。
- 滋賀県に来てから、ご自宅で農業またはご実家が農業をされている方、家庭菜園をされている方が多いなあと感じます。  
また、小学校での稲作体験や幼稚園での収穫体験など、子どもがしっかりと農業と触れ合う機会があり、少し郊外へ行くと田園風景もしっかり残っているので、農業がまだ身近にあるなあと感じます。  
海のお魚以外の食べものでは地産地消ができる滋賀県だからこそ、これからも県民の食と切り離されない農業の発展を期待したいです。

**【自給自足について】**

- 食の自給自足は、これから益々重要となると思います。ポイントは、消費者が、安い海外品と比較して高い国内品とでどちらを選ぶかです。それには、国産を選ぶメリット紹介の工夫が必要です。  
出荷された農家の写真やコメントを書いた紙が農作物に添付されています。これら目につく形で消費者に情報を提供することは良いことだと思います。ネットでの直販など、情報を提供して、安心安全を消費者に直接訴える農家も増えてきました。  
牛肉(近江牛)は生産者コードで情報を管理しています。滋賀県として、これらを全農作物に広げてはどうでしょうか。店頭野菜に滋賀県オリジナルの番号をつけて、消費者が滋賀県の農作物紹介HPに入れば、生産者紹介、品質データ、出荷写真、地域の料理方法などの情報が提供される。
- コロナのような世界的な問題が起こった時、輸入頼みでは安心、安全な生活は望めない。最低でもマスクとか食料品とか 50~70%の自給率が必要だと思います。これからは、危機管理が最も大切な時代に入っていくと思います。
- 自給自足は、大切だと思います。できる条件があると思いますが、農業収入が低すぎるのもこれを阻害する要因。兼業農家が現状では理想かと思います。シンドイですけどね。

#### 【自らが農業を行うことについて】

- 日々の食事に対して、農業従事者さんへの感謝はありますが、自分でやろうとは思いません。このようなことには、向き不向きがあるので。  
毎年、ご近所さんに畑を借りている父より何かしら頂戴しています。そろそろ、たまねぎやじゃがいもが出てくる頃でしょうか。ものが育つ過程などの話を父より聞いていると、これを専業として食べていくのは相当に大変だと容易に想像できます。  
農業従事者を増やしたいのであれば、金銭的な支援ではなく、IoT などを活用した農業初心者でも入りやすい入り口を作ることではないでしょうか。そういったことを行なっている会社もあると聞きますので、ぜひ、県として導入を検討ください。
- 農業はしたいと思わないのですが、今でしたら、田植えが終わった景観を眺めることが、一日のご褒美のように癒されます。近くに田園地帯が広がることは、私の心に安らぎを与えてくれています。
- 実家が農業をしているので、コメや野菜についてはもらっている非常にありがたい環境にいると思っています。安心感もありますし、子供が生まれたときの離乳食にも大変ありがたく消費させてもらいました。ただ、子供のころから農業の手伝いをし、大変体力的にもきつい仕事だということを身にしみて経験しています。ですので、進んで自らがやりたいとは思えない実情です。
- おいしくて安全な食べ物を食べたいので、農業に少しでも携わることが出来たら有難い。田圃や畑が知らぬ間に宅地に替わっていく様を見てみると、農家の方の生活が大変であることは分かるが、心が痛む。そんな農地を小市民が生かせることができるなら農業に少しでもかかわっていきたい。それが生に繋がり、食に繋がっていき、環境保全に繋がり、持続可能な世の中に繋がっていくように思います。
- 昨春、滋賀に引っ越してきて畑や田んぼが多く、緑を目にする機会が多く、自然の多さが懐かしく、清々しい気持ちになります。畑作業にも興味はあるものの、土地も知識もなく始めるきっかけがありません。でも子どもにも良い経験だとおもうので、機会があれば農作業など少しでも取り組めればと思います。

#### 【提案】

- 農業が見直されつつありますが、私の住む地域ではやはり農業では生計がたてられないので、後継者がなく、年々耕作放棄地が増えています。一方で、農業に関心のある町の人が増えてきているので、そのような人が田畑を耕作できるようなマッチングがあればいいなと思っております。
- 近隣の農家の方々では、高齢などを理由に離農される方を知っています。獣が作物を漁って収穫ができないとか、様々な課題問題があると農家の方々から伺うことがあります。  
会社であれば、生産技術部門が生産工程との連携を図って改善を進めて行きますが、農家にはそういうシステムの構築がうまくないと感じます。農家個々はある意味ライバルでもありますし同じような悩みに対して、前向きに技術交流がされてないのかなと側からみると感じます。  
多くの優れた高技術者、高技能者が退職していて、この人たちの優れた知識や設計力、こういう頭脳を県として活かしていく、そういう活性化があつていいと思います。